

宮城県仙台市

郡山遺跡 36

— 平成27年度発掘調査概報 —



2016.3

仙台市教育委員会

宮城県仙台市

郡山遺跡 36

— 平成27年度発掘調査概報 —



2016.3

仙台市教育委員会

序 文

日頃より仙台市の文化財行政に対しご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には現在約780カ所の遺跡が確認されております。このような埋蔵文化財はその時代ごとにその地に住んだ人々の痕跡を伝えるものであり、当委員会としましては皆様のご理解とご協力を得て、大切な文化財を保存し、後世に伝えるように努めているところであります。

ここにご報告いたします郡山遺跡は、地方官衙としてはわが国でも最古段階の重要な遺跡です。昭和54年以來、継続的に実施してまいりました発掘調査により、古代の文献に記録のない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前に姿を現してきました。

平成23年3月11日に発生し、東北地方に大きな爪痕を残した東日本大震災から5年の月日が経ちました。早期の復旧・復興が望まれる中、震災集中復興期間の最終年度である今年度も、復興事業等に先立つて発掘調査の必要性のある計画が増加傾向にあるという現状があります。

このような状況の中で、発掘調査を継続できましたのも遺跡の究明にご助言をいただいた先駆の諸氏や、市民の皆様のご協力があったからだと感じております。早期に復旧・復興が叶かられ、市民生活の回復がなされるとともに、今後の復興・創生期間においても、文化財の調査成果が遺跡保護や整備、そして私達の生活文化に寄与することを願ってやみません。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

仙台市教育委員会

教育長 大越 裕光

例　　言

1. 本書は国庫補助事業による市内遺跡調査のうち、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査の調査報告書である。
2. 本概報は調査速報を目的としている。執筆は以下のように分担した。
 - 第1章 高橋和也
 - 第2章 及川謙作
 - 第3章 高橋和也
3. 本書の作成に関わる作業は、以下のように分担し、編集は及川謙作が行った。また第259次調査で出土した遺物に関しては、調査調整係の佐藤洋専門員からの助言を受けた。
 - 遺物観察表・遺構註記表作成：及川謙作・高橋和也
 - 図版作成：及川謙作
 - 遺構・遺物写真撮影：及川謙作
4. 本書に係わる出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。但し、海拔高度及び座標系は、平成23年（2011）3月11日の東日本大震災災害時の値を使用している。
2. 第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成8年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0 を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から $6^{\circ} 44' 7''$ 西傾））で表記している。
3. 文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。
4. 遺構の略称は次のとおりである。遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順である。但しピットは調査区毎となっている。

SA: 杖列・材木列 SB: 挖立柱建物跡 SD: 溝跡 SI: 積穴住居跡 SK: 土坑

SX: 性格不明遺構 P: ピット・柱穴

5. 遺物の略号は次のとおりである。

A: 繩文土器 B: 弥生土器 C: 土師器（ロクロ不使用） D: 土師器（ロクロ使用）

E: 須恵器 F: 丸瓦・軒丸瓦 G: 平瓦・軒平瓦 K: 磚石器 N: 鉄製品

6. 土師器類図における網掛けは、黒色処理が施されていることを示している。その他ノ付着物や痕跡は図上に表記している。
7. 遺物観察表中の法量で（ ）が付いた数字は、図上で復元した推定値である。
8. 土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。
9. 第1図は、1:25000「長町」を使用し作成した。

目 次

第1章 はじめに

I. 調査体制	1
II. 調査計画と実績	
1. 調査計画	1
2. 調査実績	2

第2章 郡山遺跡

I. 第256次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	4
2. 検出遺構と出土遺物	6
3. まとめ	9
II. 第257次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	14
2. 検出遺構と出土遺物	14
3. まとめ	15
III. 第259次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	16
2. 検出遺構と出土遺物	17
3. まとめ	18
第3章 調査成果の普及と関連活動	21

第1章 はじめに

I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課長 長島栄一

整備活用係 係長 斎藤裕彦、主任 斎藤克巳、主事 及川謙作

文化財教諭 千葉靖彦、小山敏明、高橋和也

専門員 木村浩二

調査調整係 係長 荒井格、主査 平間亮輔、主任 鈴木隆

主事 庄子裕美、小林航

文化財教諭 早坂純一、吉田真太郎、笹原惇、佐藤慶一

専門員 佐藤洋

発掘調査・整理作業を適正に実施するため「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けていた。指導委員会委員更新の必要性があるが、東日本大震災からの復旧に伴う発掘調査を優先せざるを得ない状況であったことから、今年度はやむなく休会となつた。平成28年度以降、郡山遺跡と陸奥国分寺跡等の遺跡内での発掘調査の状況を踏まえて、再開の調整を図っていくこととする。

II. 調査計画と実績

1. 調査計画

平成27年度に計画した本書掲載の調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として計画し、郡山遺跡を対象とした。

郡山遺跡では第5次5ヶ年計画終了後に平成17年度から補足調査を実施してきたが、東日本大震災からの早期復旧・復興を考慮し、昨年度に引き続き個人住宅建築及び震災復興に関わる調査に特化して事業を計画した。

発掘調査総経費27,970,381円、国庫補助金額13,985,000円の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に4,441,013円、国庫補助額2,221,000円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に7,458,968円、国庫補助額3,729,000円、木製品保存処理業務委託に16,070,400円、国庫補助額8,035,000円とした。これによって本書の掲載に関わる発掘調査の実施計画を以下のように立案した。

遺跡名	調査地区	調査予定面積	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡	官衙内部など10箇所	700 m ²	H27年4月～平成28年3月	個人住宅建築

表1 平成27年度発掘調査計画

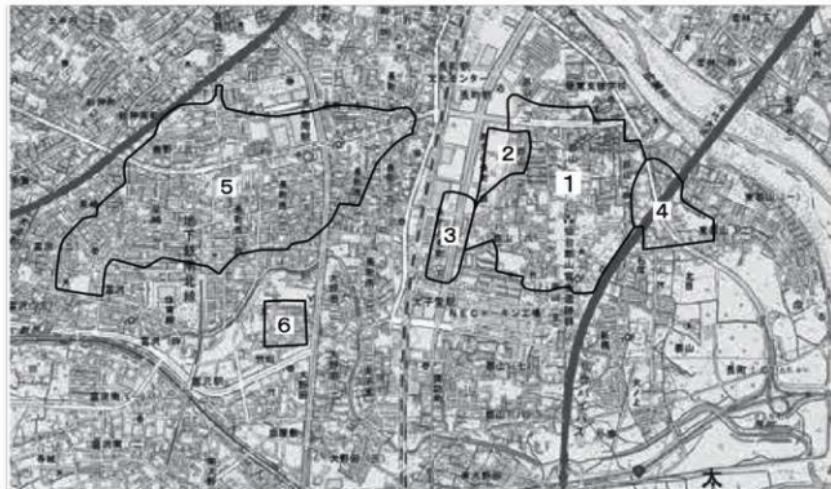
2. 調査実績

郡山遺跡については、平成27年度は5箇所の調査を実施した。そのうち本報告書では、国庫補助事業の対象となる個人住宅建築に関わる調査の259次の報告をする。なお、平成26年度中に実施したものとの年度末であったため、『郡山遺跡35-平成26年度発掘調査概報-』内の「平成26年度発掘調査実績」に掲載できなかつた256次と257次については「表2 平成26年度発掘調査実績」に掲載したが、この2件についても本書にて報告をする。また受託事業で行われた第258次については、本年度に刊行される『仙台市文化財調査報告書第446集 荒井南遺

跡他 発掘調査報告書』に所収される予定である。また平成27年度中に実施した第262次調査報告の詳細は次年度の報告とする。

遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡 第256次	郡山遺跡南西部	21.3 m ²	平成27年3月3日～3月12日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第257次	II期官衙西部	26.0 m ²	平成27年3月18日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第258次	II期官衙西部	36.0 m ²	平成27年8月24日～9月16日	道路延長工事	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第259次	郡山遺跡南東部	17.0 m ²	平成27年10月21日～10月22日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第260次	郡山遺跡南東部	216.84 m ²	平成27年11月24日～12月19日	宅地造成	開発に伴う事前調査（確認調査）
郡山遺跡 第261次	郡山遺跡南東部	20.0 m ²	平成28年1月6日～1月8日	倉庫建築	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第262次	II期官衙北東部	10.75 m ²	平成28年1月27日～2月2日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査

表2 平成27年度発掘調査実績（一部前年度実績を含む）



1. 郡山遺跡 2. 西台畠遺跡 3. 長町駅東遺跡 4. 北目城跡 5. 富沢遺跡 6. 大野田官衙道路
第1図 調査遺跡位置図



第2図 郡山遺跡調査地点位置図

第2章 郡山遺跡

I 第256次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

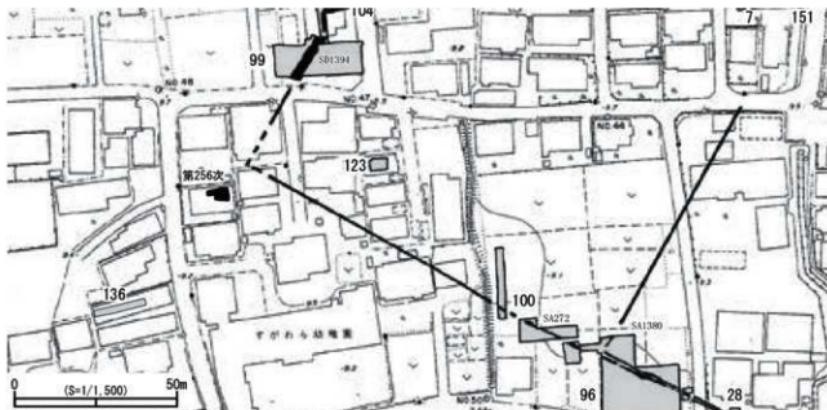
第256次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。平成27年1月19日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成27年1月21日付けH26教生文第106-366号で回答)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡の南西側にあたり、平成5年度に調査が行われた第99次調査区の南側に、平成12年度に調査が行われた第136次調査区の東側に、また平成18年に調査が行われた第177次調査区の西側にあたる。調査地点周辺は、郡山Ⅰ期官衙の遺構群が多数見つかっている範囲である(第2・4図)。

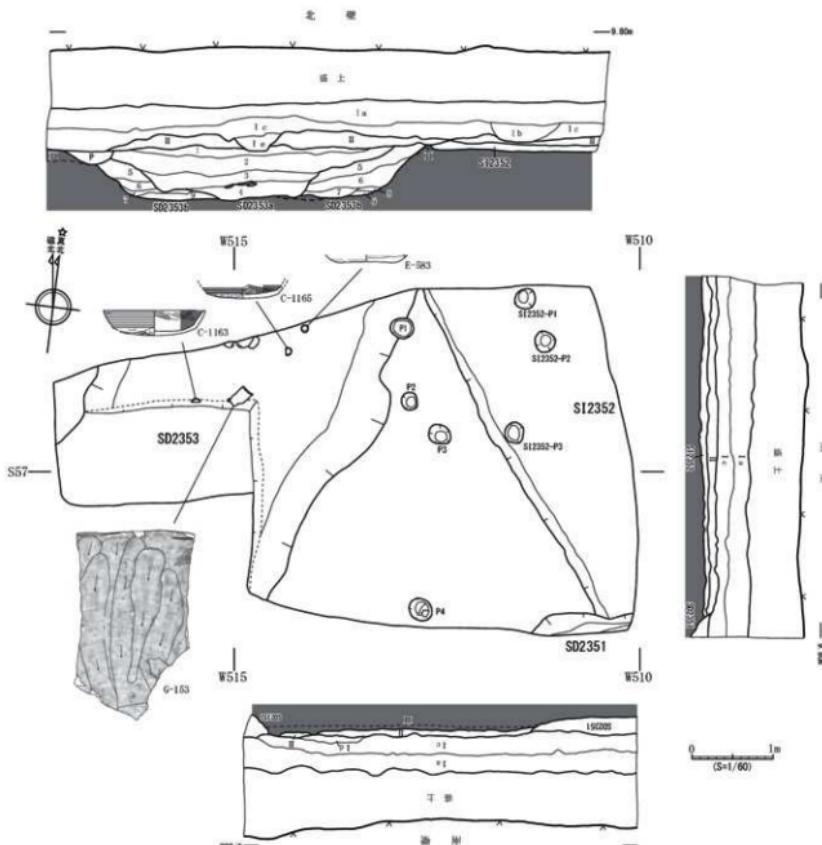
調査は平成27年3月3日に着手し、建物建築範囲内に東西5m、南北4mの規模で設定し、重機により盛土及び耕作土であると考えられる基本層第I層とII層を掘り下げ、III層上面で遺構検出作業を行った。また調査区の西側に遺構が広がることが確認されたことから、調査区を西側に東西2.5m、南北2m拡張し、遺構の全体像の確認に努めた。遺構の記録は、平面図・断面図を1/20で、調査区配置図を1/50で作成し、写真は35mmモノクロとリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山遺跡の座標(No.47)から基準点の移設を行った。3月12日に終了し、その後重機により埋め戻しを行った。



第3図 第256次調査区配置図



第4図 第256次調査区位置図



地層名	位置	色 調	土質	備考・混入物	
				I	II
基 本 層	I a	10YR2/1 黄褐色	シルト質粘土	炭化粒 (φ 2mm) 少量含む	
	I b	10YR3/2 紫褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 5mm) 少量含む I a 層に伴う縦り込み	
	I c	10YR2/1 灰褐色	粘土	グリナイトした無機物 (2.0mm) 粘土ブロック (φ 1cm) 下層に斑状に含む 炭化物 (φ 1cm) 少量含む	
	I d	10YR2/2 灰褐色	シルト質粘土	一部グリナイト II 層ブロック (φ 5cm) 斑状に含む 炭化粒 (φ 2mm) 少量 I c 層に伴う縦り込み	
	I e	10YR2/2 灰褐色	粘土質シルト	層間ブロック (φ 2cm) 斑状に含む 炭化粒 (φ 5mm) 少量	
	II	5YR2/2 オリーブ褐色	粘土	全体的にグリナイト 炭化鉱物 (φ 2mm) 斑状に含む 炭化粒 (φ 2mm) 斑状に含む	
SD2351	III	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	一部グリナイト 炭化粒 (φ 2mm) 少量含む 滑模接出面	
	IV	10YR2/2 黑褐色	粘土	炭化鉱物 (φ 2mm) 炭化粒 (φ 2mm) 少量含む	
SD2352	I	10YR2/1 黑褐色	粘土	炭化鉱物 (φ 2mm) 白色砂 (φ 1mm) 斑状に多量に含む 粘土粒 (φ 1 ~ 2mm) 斑状に含む	
	II	10YR2/2 灰褐色	粘土質シルト	炭化鉱物 (φ 2mm) 斑状に多量に含む 白色砂 (φ 1mm) 斑状に含む 炭化物 (φ 2 ~ 5mm) やや多量に含む	
	3	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	炭化鉱物 (φ 5mm) 斑状に含む 炭化物 (φ 2 ~ 10mm) やや多量に含む	
	4	10YR4/1 黄褐色	シルト質粘土	炭化鉱物 (φ 2 ~ 5mm) 斑状に含む 炭化物 (φ 2 ~ 5mm) 少量含む	
	5	10YR3/3 灰褐色	粘土質シルト	炭化鉱物 (φ 2 ~ 5mm) 斑状に多量に含む 白色砂 (φ 1mm) 斑状に含む	
	6	10YR2/1 黑褐色	砂質シルト	炭化鉱物 (φ 2 ~ 5mm) 斑状に多量に含む 白色砂 (φ 1mm) 少量含む	
SD2353	7	10YR2/1 黑褐色	粘土	炭化物 (φ 2 ~ 5mm) 少量含む	
	8	10YR4/1 黄褐色	粘土	ラミナ状構造 炭化鉱物 (φ 5mm) 少量含む	
	9	5YR1/灰褐色	粘土	堅密な粘土ブロック主体 炭化鉱物 (φ 1cm) 少量含む	

第 5 図 第 256 次調査区 平・断面図

2. 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、堅穴遺構1軒、溝跡2条、ピット4基である。また各遺構及び基本層中と、遺構検出面、堆積土を中心に土師器や須恵器、石製品や瓦などの遺物が出土している。ここでは、検出された遺構のうち、堅穴遺構と溝跡、ピットを中心に報告する。

【SD2351 溝跡】

調査区の東側で検出された東西方向の溝跡である。基本層II層から掘り込まれている。規模は検出長約1.3m、横幅は20cmで、調査区外にさらに延びる。方向はW-16°-Sで、断面形状は不明である。遺構検出面から底面までの深さは約25cmである。

遺物は出土していない。SI2352堅穴遺構と重複し、これよりも新しい。

【SI2352 堅穴遺構】

調査区東側に位置する。上面は削平を受け、底面に近い部分のみが確認された。平面形は方形を呈するものと推定される。検出された規模は、東西1.83m、南北4.55mである。遺構の堆積土は1層のみで、層厚は6~10cmである。底面から3基の柱穴を検出した。いずれも規模は小さく、直径は22~25cmの円形を呈し、深さは15~20cmである。いずれも堆積土中に炭化粒がやや多く混入している。柱痕跡は確認されなかった。

遺物は出土していない。SD2351溝跡と重複し、これよりも古い。



第4図 SI2352 P1~3断面図

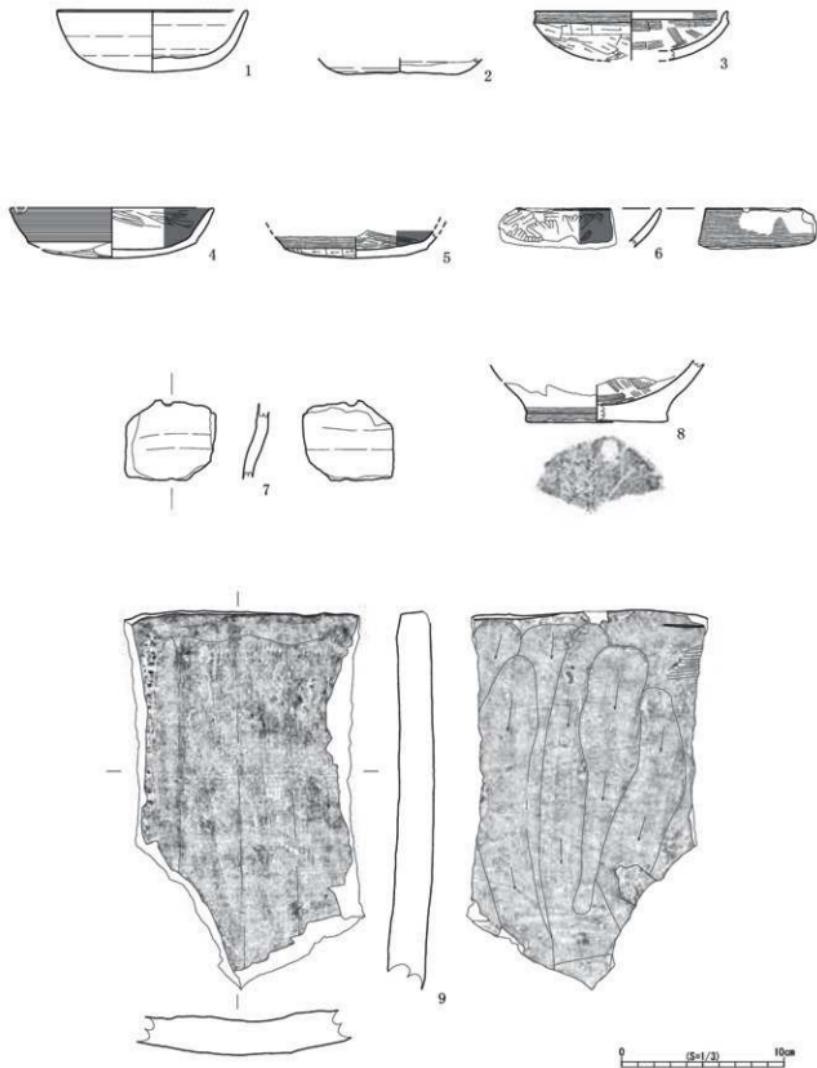
【SD2353a・b溝跡】

調査区の西側で検出された北東-南西方向の溝跡である。規模は検出長が約4.25mで調査区外にさらに延びる。方向はN-33°-Eで、上端幅が約3.1m、下端幅が約2.3~2.5mで、断面形状は逆台形を呈する。遺構検出面から底面までの深さは約60~70cmである。堆積土は9層に細分される。そのうち1~4層は掘り直された層であると考えられ、この層をSD2353a溝跡、掘り直される前の5~9層をSD2353b溝跡とした。

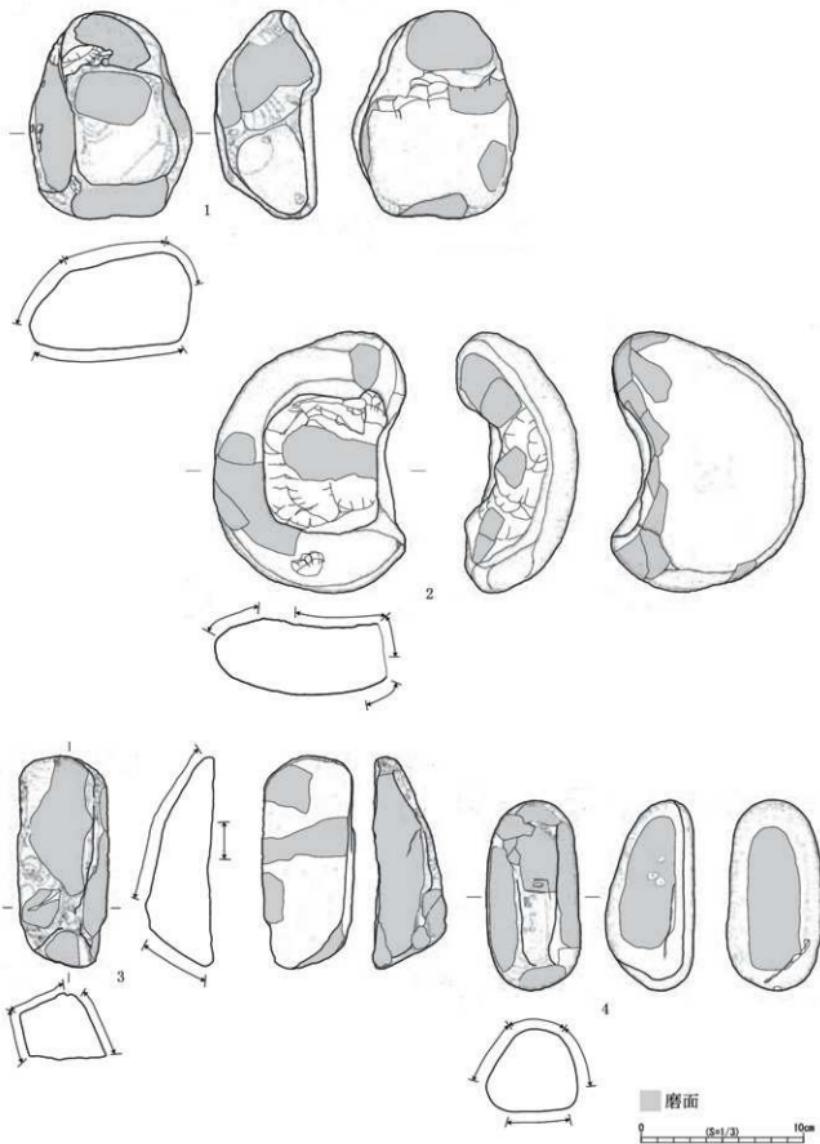
遺物は上層から須恵器の壺(E-584・第7図1)が出土しているが、大部分はSD2353a溝跡の3層と4層の境付近に集中して出土している。内面黒色処理された土師器の壺(C-1163・第7図4、C-1166・第7図6)や壺、須恵器の壺の底部(E-583・第7図2)、凸面に短縫叩きがなされた後にヘラ削りとナデが施された平瓦(G-143・第7図9)、磨石などの石製品が多数出土している。また小破片のため図示できなかったが、東海地方産と思われる須恵器の瓶瓢の破片も出土している。P1と重複し、これよりも古い。

【ピット】

今回の調査区から4基のピットが検出された。平面形状は円形を呈する。直径は約20~30cm、深さは約20~27cmを測る。いずれのピットからも柱痕跡は検出されなかった。一部のピットからは磨石(K-353・第8図4)や土師器片などの遺物が出土している。建物跡などを構成するような有意な結びつきは確認されなかった。



第7図 SD2353溝跡出土遺物(1)



第8図 SD2353 漢跡出土遺物 (2)・PI 出土遺物

調査番号	発見番号	種別	断面	出土遺構・部位	流量 (cm - g)	外側調整・付着物等	内面調整・付着物等	写真図版	
T-1	E-581	車道跡	坪	SD2352 a + b	上層 厚さ：3.8	口径：(11.4) 岩径：(5.2)	ロクロナデ、回転ヘラ切り	ロ鉄部：ヨコナデ（摩滅）	3-1
T-2	E-583	車道跡	坪	SD2352a	3層	口径：7.0	ロクロナデ、回転ヘラ切り	ロクロナデ	3-2
T-3	C-1161	土師跡	坪	SD2353a + b	口径：11.8	ロ種割ヨコナデ 岩部へラケズリ	ロ種割：ヨコナデ（摩滅）	3-3	
T-4	C-1163	土師跡	壁	SD2353a	3層	口径：(12.4) 岩径：(10.6) 厚さ：3.1	ロ種割：ヨコナデ 底部：手持ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理	3-4
T-5	C-1165	土師跡	坪	SD2353a 3 + 4層	口径：8.8	ヨコナデ 底部：ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理		
T-6	C-1166	土師跡	坪	SD2353a + b	口径：8.8	ロ種割：ヨコナデ	ヘラミガキ→黒色処理		
T-7	C-1164	土師跡	壁	SD2353a	4層	ナデ（摩滅）	透け音（摩滅）	3-5	
T-8	C-1162	土師跡	壁	SD2353a 1 + 2層	口径：(8.8)	ロ種割ヨコナデ 底部：本種板 ヘラケズリ	ヘラナデ		
T-9	G-153	瓦	SD2353a	3層	幅：(23.3) 横：(13.2) 厚さ：2.0～2.3	前面：布目底、ヘラケズリ 内面：短瀬叩き→ヘラケズリ→ナデ 側面：ヘラケズリ		3-6	

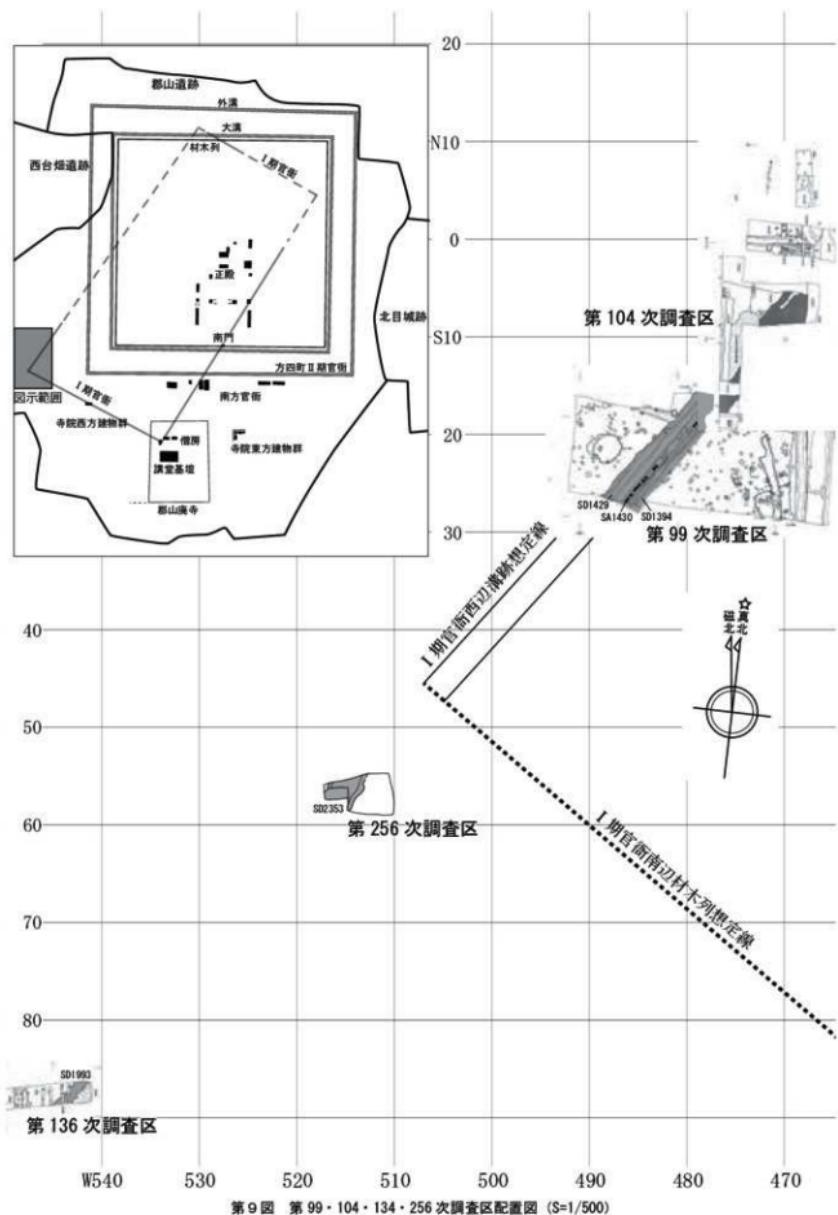
調査番号	発見番号	種別	断面	出土遺構・部位	流量 (cm - g)	備考・特徴	写真図版
E-1	E-351	織石跡	織石	SD2353a + b	長径：12.7 幅：10.0 厚さ：5.5 重量：1620	5面壓 一部敲打痕	3-9
E-2	E-347	織石跡	圓石	SD2353a + b	最大径：16.1 最大幅：8.75 厚さ：4.3 重量：1060	正面 側面 壁面 表面：磨面 側面：磨面	3-7
E-3	E-349	織石跡	織石	SD2353a + b	最大径：12.8 最大幅：8.6 厚さ：4.0 重量：420	5面壓 一部敲打痕	3-8
E-4	E-353	織石跡	織石	PI	長径：11.7 幅：5.6 厚さ：5.5 重量：513	3面壓 一部敲打痕	3-10

3.まとめ

今回の第256次調査区からは堅穴遺構が1軒(SI2351)、溝跡が2条(SD2352・2353)、ピット4基が検出された。このうちSD2353溝跡は、方位がN-33°-Eで、掘り直されており、SD2353bとSD2353aの2時期の変遷がある。周辺の調査区では、北東側の延長線上の第99次調査で検出された、同じ方向を示すSD1429溝跡とSD1394溝跡がある。この2条の溝跡には、SD1429溝跡が古く、SD1394溝跡はそれを掘り直した関係がある。SD2353b溝跡とSD1429溝跡、SD2353a溝跡とSD1394溝跡は2時期の変遷を示し、また溝の幅、深さなどの規模もほぼ同一であることから、それぞれ同じ溝跡の可能性がある。

また南東側に位置する第136次調査で検出されたSD1994溝跡は、遺構検出にとどめたため変遷や深さなどの規模は不明だが、SD2353溝跡の延長上に位置し、方位もほぼ同じであることから一連の遺構である可能性がある(第9図)。

しかし今回の調査は遺構の部分的な調査であることから、詳細については、今後さらに検討を重ねていきたい。



第 9 図 第 99・104・134・136・256 次調査区配置図 ($S=1/500$)



1. 調査区北壁・SD2353 溝跡土層断面（南から）



2. 調査区全景遺構検出状況（西から・拡張前）



3. 調査区東壁土層断面（南西から）



4. SD2353 溝跡遺物出土状況（南西から・拡張前）



5. SD2353 溝跡遺物出土状況（南から・拡張前）

写真図版1 第256次調査区（1）



1. 調査区全景遺構完掘状況（南西から・拡張前）



2. 拡張区遺構検出状況（南西から）



3. SD2353 溝跡完掘、遺物出土状況（北から）



4. SD2353 溝跡遺物出土状況（北から）



5. SD2353 溝跡遺物出土状況（東から）

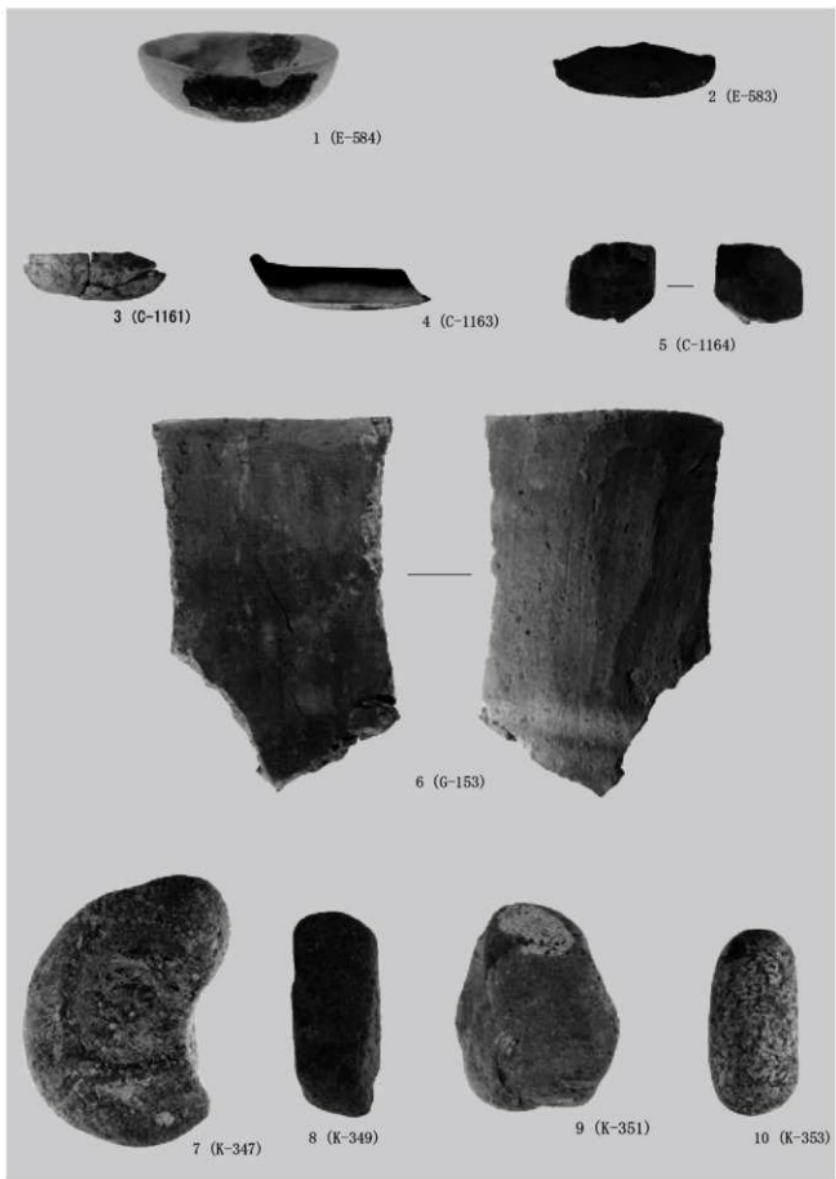


6. 調査区内作業状況（北西から）



7. 調査区内作業状況（南西から）

写真図版 2 第 256 次調査区（2）



写真図版 3 第 256 次調査区出土遺物

II 第257次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

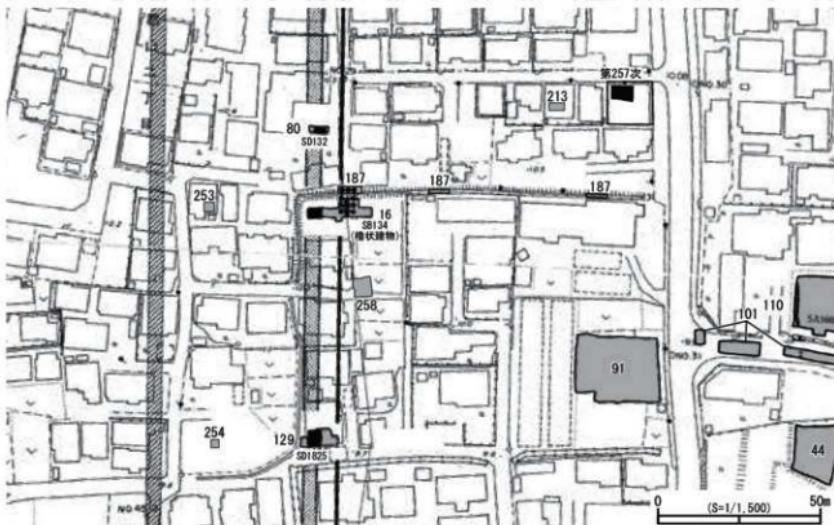
第257次調査は、個人住宅建築に伴う調査である。平成27年3月4日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成27年3月5日付けH26教生文第106-459号で回答)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町II期官衙の西側に位置し、平成19年に調査が行われた第187次調査区の北側に、平成23年度に調査が行われた第213次調査区の東側にある。(第2・11図)

調査は平成27年3月18日に着手し、建築予定範囲内東西6.5m、南北4.0mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層第I層(3層に細分される。近現代の水田耕作層)を掘り下げたが、当初の想定よりも盛土とI層が厚かったことから、GL-1.5m付近で東西約1.0m、南北約1.0mで段を設けて掘削を行い、下層から古代以前の遺構検出面であると考えられるII層(a・b層に細分)を確認し、遺構確認を行い、その後調査区配置図をS=1/50で、調査区断面図をS=1/20で作製した。記録写真是35mmモノクロとリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山遺跡の座標(No.30)から、トランシットを用いて基準点の移設を行った。同日に調査を終了し、その後重機により埋め戻しを行った。



第10図 第257次調査区配置図



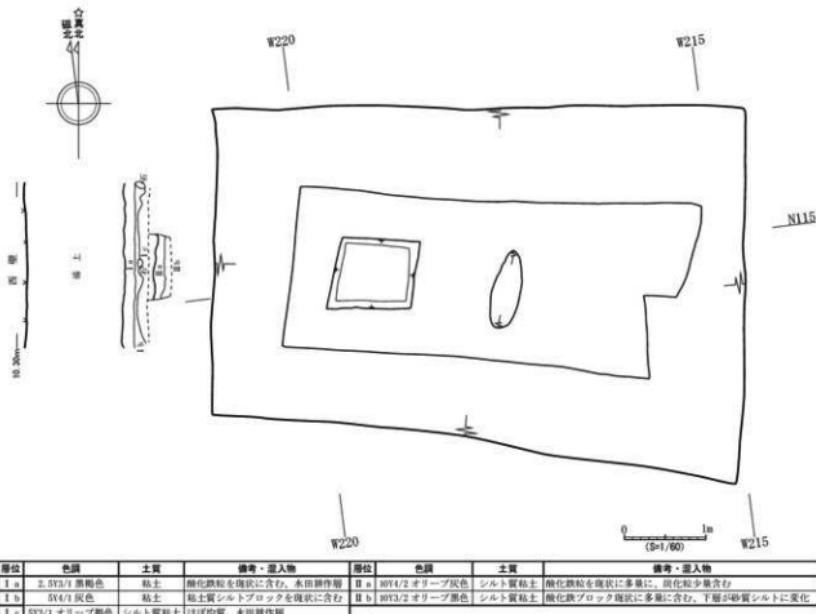
第11図 第257次調査区位置図

2. 検出遺構

遺構、遺物は検出されなかった。

3.まとめ

これまでの近隣の調査ではⅠ期官衙の時期の堅穴住居跡や工房跡と考えられる堅穴建物跡などが多数検出されている。よって今回の調査区でもこれらの遺構が検出されることが予想されたが、盛土が厚く堆積しており、基本層第Ⅰ層も40cm以上の厚さがあり、その下層から古代以前の基本層と考えられるⅡ層が検出された。この状況は西側の第213次調査地点の調査成果と類似している。またⅡ層は、検出されたレベルが周囲の調査区に比べ約50~60cm以上低いことから、遺構検出面の上面はかなり削平されていることが判明した。



第12図 第257次調査区平・断面図



1. 調査区全景遺構検出状況（東から・段下げ前）



2. 調査区西壁土層断面（東から・段下げ後）

写真図版4 第257次調査区

III. 第259次発掘調査

1 調査経過

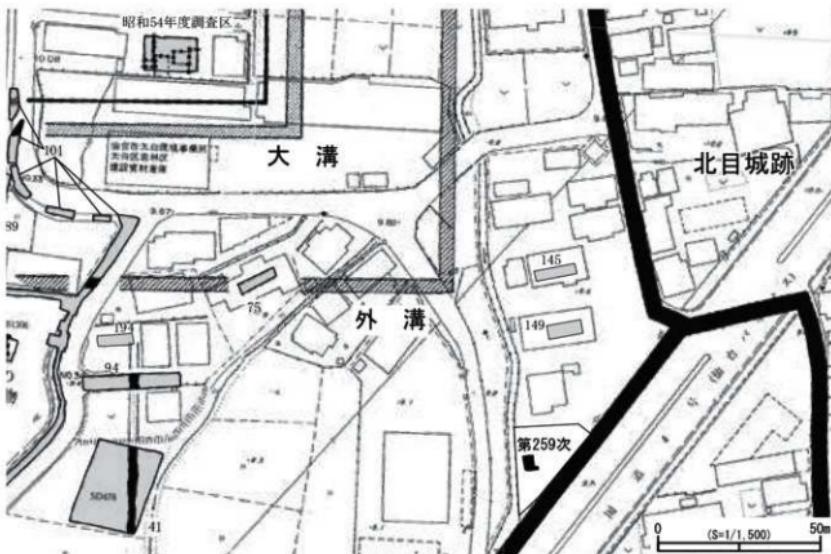
第259次調査は、個人住宅建築に伴う調査である。調査は、平成27年9月25日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成27年10月7日付けH27教生文第101-406号で回答)に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町II期官衙の南東側に位置し、平成14年度に調査が行われた第145次、149次調査区の南側にあたる。

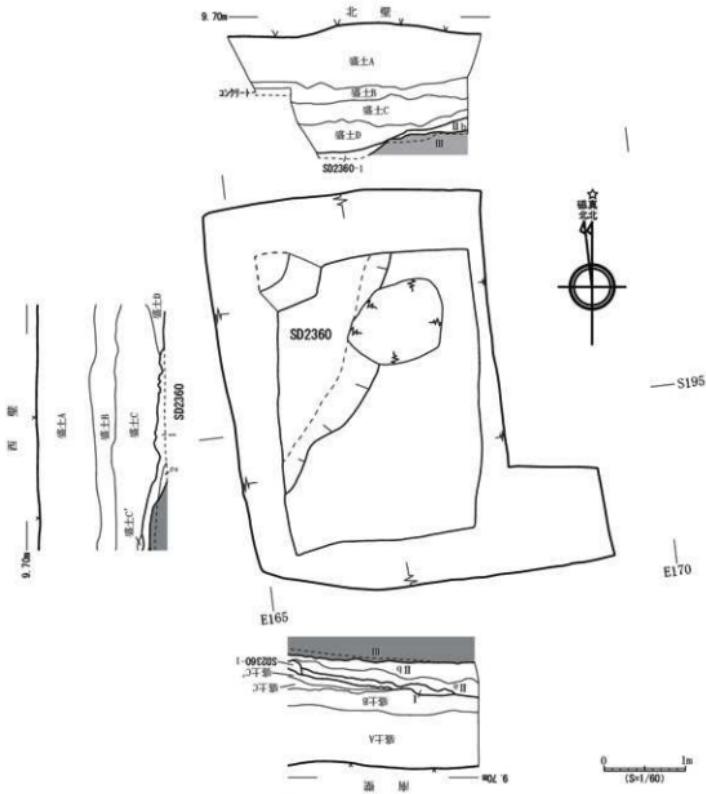
調査は平成27年10月21日に着手し、建設予定範囲内に東西3.0m×南北5.0mの調査区を設定し、重機により盛土(5層に細分)と基本層第I層とII層(a、b層に細分)を掘り下げ、古代の遺構検出面であると考えられるIII層上面で遺構検出作業を行った。遺構の掘削を行った後、調査区・遺構配置図をS=1/40で、調査区断面図をS=1/20で作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。10月22日に調査を終了し、重機による埋め戻しを埋め戻しを行った。



第13図 第259次調査区配置図



第14図 第259次調査区位置図



層位	色調	土質	備考・混入物	遺構・層位	色調	土質	備考・混入物
I	10YR2/2 黄褐色	シルト	II層ブロック少量含む、田耕土作	遺構・層位	色調	土質	備考・混入物
II a	10YR3/4 黄褐色	シルト	黒色シルトブロック少量	III層	にぶい黄褐色シルト		
II b	10YR3/4 黄褐色	シルト	(ほぼ)黄質	III層	暗褐色シルト		
III	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄鉱を微状に含む	III層	明褐色シルト+纖維		
底土A	砂+繊			SD2360	1 10YR2/1 黒色	シルト	酸化鉄鉱斑状に含む
底土B	暗褐色砂+炭化物			2 10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	酸化鉄鉱少量に含む	

第15図 第259次調査区 平面図・北壁・西壁・南壁断面図

2 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、溝跡が1条である。また遺構及び基本層中と遺構検出面、堆積土を中心近く現代陶器器、瓦質土器、土師器の細片などの遺物が出土している。

【SD2360溝跡】

調査区の西側で検出された溝跡である。基本層第I層から掘り込まれている。規模は検出長約3.1m、横幅は約1.5mで、調査区外にさらに延びる。方位はN-24°-Eで、真北から東に振れる。遺構検出面から約30cmの深さまで掘り下げたが、調査区の安全性を考慮し、遺構の完掘は行っていない。遺構検出面と堆積土中から近

現代陶磁器と瓦質土器（第16図1）などが出土している。遺構の上面に、にぶい黄褐色シルトと、明褐色シルトと疊の盛土が厚く堆積している。盛土と堆積土の境付近にプラスチックなどが出土したことから、この盛土は現代の時期に埋められたものと考えられる。

堆積土中から出土した瓦質土器は、底径が約12cmで、体部は底に近い部分が最も膨らむ。体部には斜位に刺突文を施した後に、型抜きの葡萄紋を貼り付けている。時期は近世後半と考えられる。



第16図 SD2360 溝跡出土遺物

3 まとめ

今回の調査では溝跡が1条検出された。堆積土中から近世の瓦質土器が出土し、また溝の方位が調査区の西に隣接する現代の用水路、「郡山堀」と方位がほぼ一致することからこの一部であると考えられるが、今回の調査は遺構の部分的な調査であることから、詳細については今後さらに検討を重ねたい。なお古代の遺構は検出されなかつた。



第17図 北目城周辺の地籍図（明治時代中期・『仙台市史 特別編 城館』より一部改変）



1. 調査区全景・SD2360 溝跡段下げ状況（北から）



2. 調査区全景・SD2360 溝跡段下げ状況（東から）



3. 調査区北壁土層断面（南から）



4. SD2360 溝跡遺物出土状況（東から）



5. 瓦質土器・鉢（SD2360 溝跡・I-62）

写真図版5 第259次調査区・出土遺物

引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 1992 『郡山遺跡 - 第 65 次発掘調査 -』 仙台市文化財調査報告書第 156 集
仙台市教育委員会 1994 『郡山遺跡 XIV』 仙台市文化財調査報告書第 178 集
仙台市教育委員会 1995 『郡山遺跡 XV』 仙台市文化財調査報告書第 194 集
仙台市教育委員会 1995 『北目城跡』 仙台市文化財調査報告書第 197 集
仙台市教育委員会 2001 『郡山遺跡 21』 仙台市文化財調査報告書第 250 集
仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡発掘調査報告書 総括編 (1)』 仙台市文化財調査報告書第 283 集
仙台市史編さん委員会 2006 『仙台市史 特別編 7 城郭』
辻秀人他 2007 「古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究」
平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書
仙台市教育委員会 2011 『郡山遺跡 第 190 次調査』 仙台市文化財調査報告書第 389 集
仙台市教育委員会 2012 『郡山遺跡 他』 仙台市文化財調査報告書第 405 集
仙台市教育委員会 2013 『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告 I』 仙台市文化財調査報告第 416 集
仙台市教育委員会 2013 『郡山遺跡 33』 仙台市文化財調査報告書第 417 集
仙台市史編さん委員会 2014 『仙台市史 特別編 9 地域誌』

第3章 調査成果の普及と関連活動

1. 主な広報・普及・協力活動

年月日	行事名称	担当	対象
2015. 4. 13	郡山遺跡見学	及川	豊崎学園
4. 18	郡山遺跡見学	及川	えみし学会
4. 19	郡山遺跡見学	及川	一般市民
5. 18 ~ 22	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立長町中学校 2年生 3名
5. 26	郡山遺跡見学	及川	NPO法人シニアのための市民ネット活動グループ「伊達治家記録を読む会」
6. 14	郡山遺跡見学	及川	郡山老人福祉センター百間の会
6. 23	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立東長町小学校 6年生
6. 30	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立八本松小学校 6年生
7. 22	出前講座	及川	仙台・文化財サポーター会 史跡研究会
7. 25	郡山遺跡見学	及川	一般市民
8. 19 ~ 21	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立沖野中学校 2年生 3名
8. 24 ~ 28	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立郡山中学校 2年生 3名
9. 23	出前講座	及川	仙台・文化財サポーター会
10. 20 ~ 22	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立八軒中学校 2年生 3名
11. 4 ~ 6	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立袋原中学校 2年生 3名
11. 9 ~ 13	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立富沢中学校 2年生 3名
11. 13	郡山遺跡見学	及川	一般市民（主催：名取市館腰公民館）
11. 17 ~ 19	職場体験学習	高橋（和）・及川	仙台市立山田中学校 2年生 3名
2015. 4. 8 ~ (毎月 8 日)	薬師堂手づくり市	整備活用係	一般市民 (主催：薬師堂手づくり市実行委員会)



職場体験学習



薬師堂手づくり市



植栽活動



植栽状況

報告書抄録

ふりがな	こおりやまいせき							
書名	郡山遺跡36							
副書名	平成27年度発掘調査概報							
巻次	36							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第450集							
編著者名	及川謙作、高橋和也							
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）							
所在地	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目5-12 上杉分庁舎10F TEL 022（214）8893							
発行年月日	2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間		調査面積 (m ²)	調査原因
郡山遺跡	宮城県 仙台市 太白区郡山	4100	1003	38°	140°	256次	2015.3.3~12	21.3m ² 個人住宅建築
				12'	53'	257次	2015.3.18	26.0m ² 個人住宅建築
				58"	41"	259次	2015.10.21~22	17.0m ² 個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
郡山遺跡	官衙跡 寺院跡 集落跡	古墳～ 平安	・竪穴造構 ・溝跡	・礫石器 ・土師器 ・須恵器 ・瓦 ・瓦質土器				
要約	・第256次調査では1期官衙の西辺の延長と思われる溝跡が発見され、土師器や須恵器、瓦などの遺物が出土した							

仙台市文化財調査報告書第450集

郡山遺跡 36

—平成27年度発掘調査概報—

2016年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区上杉一丁目5-12

上杉分庁舎10F

文化財課 TEL 022 (214) 8893

印 刷 毛 リ タ 印 刷 株 式 会 社

仙台市太白区郡山八丁目30-30

TEL 022 (246) 0105
